

広がるトリ科学



国際鳥類内分泌学シンポジウムに向けて

烏骨鶏という鶏

＝⑤＝

岐阜市で6月 市民公開講座

市民公開講座「広がるトリ科学の世界」(岐阜新聞・岐阜放送後援)は6月7日午後4時から、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で。対象は高校生、一般。参加費無料。

烏骨鶏(ウコッケイ、Silky Fowl)の原産地はベトナム地方であり、わが国には江戸時代初期に中国から漢方の薬学書と共に渡来し、昭和17年に国の天然記念物に指定されました。愛玩用の鶏として飼育されている以外に、卵や肉は漢方において滋養分の多い食料として珍重されています。

烏骨鶏は顔面をはじめとする全ての皮膚や冠、筋肉や骨膜などの体組織および脛色が黒紫色であり、黒色(メラニン)色素が沈着していることが他鶏と著しく異なる点です。冠はくるみ冠で毛冠を持ち、多趾(たし、5本)であり、成体重は雄では約1.2倍、雌では約0.9倍です。羽色は白いが黒色のものもあり、羽面の小羽枝に鉤(かぎ)がなく、繫(つな)がっていないので絹糸状の糸毛(シルキー)になっており、この糸毛が見事な風貌を作っています。

烏骨鶏には就巢性があり、産卵数は年間50〜60個で、この数は白色レグホーン系の鶏(年間約290個)よりも極めて少ないです。烏骨鶏の黒色色素

黒い地肌、栄養たっぷり

キャナリイ21 烏骨鶏栄養科学研究所 所長 野口展加氏



野口展加所長

が豊富に認められている組織について本研究所で生理化学的に分析したところ、白色レグホーン系の鶏の約5倍もの活性酸素を除去するカルノシン様の効果が認められ、抗酸化作用を有する食品としての発展的利用が期待されています。

また、烏骨鶏の卵にはさまざまな生理活性物質の前駆体となるホスファチシルコリンを連続して投与し続けることで、羽が生え替わり、新しい羽は小羽枝が繫がって普通の鶏のようになります。この



天然記念物烏骨鶏プリンセスシルキー®